2014-2015 年度今治ロータリークラブ週報 No.13

第 １３ 回 例 会 報 告（１０月２日）

【 出　席　報　告 】

・会員数　５５名　・出席数　４２名　・欠席数　１３名
・当日出席率　８１．２５％　・前々回修正出席率　８９．５８％
＜欠席会員＞檜垣(俊)、桑森、森岡、村上(修)、村上(裕)、田中(悟)、竹田
〔免除会員〕青野(明)、青野(賢)、原田、檜垣(巧)、川上、宮本
<9/18 欠席補填>(9/8 高松北)檜垣(俊)、眞鍋　(9/17 東予)桑森　(9/23 松山西)村上(裕)、田中(良)
(9/29 松山北)平尾、吉良、尾越、渡辺

◇会長報告・新会員推薦者への記念ピンを菅会員へ贈呈しました。
◇幹事報告・フィリピン　パナイ島小学校修復プロジェクト募金のご協力をお願いします。
◇親睦活動委員会・お誕生日スピーチ・吉田透会員：新幹線開通と前回の東京オリンピック開催の年に生まれた 50 歳。2020 年の東京オリンピックは 56 歳になりますが、その時は元気に会場で応援したいので私生活での節制に心がけます。

新会員卓話

◆田中良史会員「今治タオル 120 年の歩み」:今年で今治タオル発祥 120 年。古くは 746 年（天平 18 年）正倉院南倉の御物の「あしぎぬ（絹織物）」に、伊予国越智郡から奉納された旨の記述があり、1600 年（慶長 5 年）頃、今治で綿花栽培が盛んに行われる。1716 年（享保元年）今治商人の柳瀬義達氏が綿替木綿制度を始め、伊予木綿が全国に広まる。1886 年（明治 19 年）矢野七三郎氏が木綿織機 8 台で綿ネルの製織を始め、1894 年（明治 27 年）阿部平助氏が改造織機 4 台でタオルの製織を開始。この年を今治タオル発祥の年とし、今年で 120 年を迎える。▼温暖な気候（昔は染色したタオルを天日乾し）と豊富な軟水（染色に適している）に恵まれた今治地域で生産される今治タオルは順調に生産量を増やし、「四国のマンチェスター」と呼ばれた。今治では 1922 年（大正 11 年）に四国最初の開場港として今治港が指定される。1926 年（昭和元年）には今治タオルの企業数は 70 社にのぼったが、1945 年（昭和 20 年）の今治大空襲で壊滅的な被害を受け、タオル業者は 9 社まで激減。しかし、1960 年（昭和 35 年）に開発された「タオルケット」が爆発的ヒットを記録し、大阪タオル産地を抜いて日本最大のタオル産地となる。その後、1986 年～1992 年頃に今治タオル産地の生産量がピークを迎える。その後、輸入量が増加し、2000 年（平成 18 年）にはタオルの輸入量が全国のタオル生産量を抜くことになるが、今治においては未来を見据えた準備（産地ビジョン、構造改善ビジョン、新産地ビジョン）を着々と進め、2006 年 6 月に今治タオルプロジェクトが開始される。▼現在、タオルの輸入量は 2007 年の世界同時不況以来減少傾向であるが、今治タオルの生産量は最悪の時期から順調に増加している。これは今治タオルの歴史において、企業が独占することなくタオル技術を広め、企業の新規参入や独立を奨励してきた先輩方の功績が多大である。また、このことが日本のタオル産地として今治が生き残った一つの大きな要因でもある。現在、120 社程の企業が、高い技術力を背景に各々の作り方、売り方など多方面での努力を重ねている。先輩方が自分達に残してくれたように、次の世代へ引き継ぐべく今治タオルを探求していきたい。今後共、今治タオルの応援を宜しくお願いします。

次 回 例 会（１０月９日）

【　ロータリー情報委員会アワー　】

＜会員誕生日祝＞　桑森ひとみ氏（10/14）
＜配偶者誕生祝＞　原　竜也氏（10/13）
＜結婚記念日祝＞　檜垣　俊二氏（10/10）　越智　健司氏（10/10）
＜入会記念日祝＞　渡辺　昜廣氏（10/14）　田中　悟氏（10/14）

〔　俥屋　〕